

第4回摂津市総合計画審議会（第3部会）議事録

日時：平成21年12月18日（金）14：00～16：00

場所：摂津市役所 新館7階 講堂

1. 議事

事務局

あいさつ、資料確認

部会長 近畿大学教授の久先生の紹介

出席担当課（都市計画課、まちづくり支援課、建築住宅課、建築指導課、道路課、交通対策課、水道部総務課・営業課・工務課・浄水課、下水道業務課、下水道管理課、下水道整備課）の紹介

基本構想（案）の修正点の確認

久部会長

審議項目が多いので、1件あたり10分強しか時間がない。ご協力をお願いしたい。今日は、主に「2-3 都市基盤を整備し、安全で安心して暮らせるまちにします」を検討する。さらに、2-4の「住宅」と「景観」をあわせた9項目を審議する。

「良好な土地利用をすすめます(2-3-8)」を例として進め方を共有したいと思う。指標や時系列グラフについては、7回目に議論する予定である。今日、主にご意見をいただきたいのは、右側のページの「施策の展開」、「摂津市の特色」、「それぞれの役割」のところである。

「平成33年3月に実現している姿」を目標として頑張っていこうということになっているので、それを受けて「施策の展開」が記述されている。その中でも特に頑張っていきたいとする項目に◎がついている。メリハリをつけるために、◎は2つか3つに絞っていきたい。また、摂津市らしい魅力ある取組を「売り」として書いていくことになっている。

また、本日は、9つの項目を検討していくが、記述内容のレベルに差があると思われるので、書き込みすぎのところや、踏み込みが弱いといったご意見もいただいて担当課に戻していきたいと思う。

■施策 良好な土地利用をすすめます(2-3-8)

久部会長

「良好な土地利用をすすめます(2-3-8)」を検討する。施策の展開として4項目があげられている。吹田操車場跡地については今後整備が進められるので◎がついている。南千里丘については、まもなく新駅ができるが、駅の南側に建物を整備していくときに、良好なまちをつくっていくという方向性が示されている。また、摂津市は密集市街地が多いので

火災に強いまちづくりを進めていくことや、都市計画マスタープランをしっかりと改定したいという方向性が示されている。

榎谷委員

操車場跡地や南千里丘のように、今誰も住んでいなくて、これから街路や区画をつくっていく地域をどうしていくかというテーマと、既にできているまちのなかで、不燃化のまちづくりなど、どういう都市計画や土地利用を進めていくかという2つのテーマがあると思う。既存の住宅地については大規模な都市開発や再開発をすることは考えにくい。現状の街路や建物、インフラを前提としながら、その良さをどのように活かしていくのかといったことを、地域の人たちといっしょに考えていくこと、話していくことが大事になってきている。

久部会長

ただいまのご意見については、摂津市では、主にまちづくり支援課が担っていることである。正雀のまちづくりについては、「駅周辺の整備をすすめます(2-3-9)」で記述されている。「良好な土地利用をすすめます(2-3-8)」は、都市計画課の業務を中心に記述されているが、住民によるまちづくりを支援していくという方向性も記述することが考えられる。

榎谷委員

市民・地域の役割が、「地域と調和の取れた土地・建物の利用に努めます」とあるが、もっと能動的に、地域をどうしていくのかについて住民がもっと参画していくことを書いてはどうか。例えば、JR千里丘駅西地区については再開発の方向性が示されているが、東側については記述がみられない。街路はできているが、他の地域はどうしていくのか。

また、不燃化のまちづくりについても、類焼・延焼を防ぐという趣旨は市民でも分かると思うが、例えば、防火壁の作り方など、具体的にどのようにすればいいのかといったことまでは市民が分かっているとは思えない。そういったことを住民と行政と一緒に考えていけるようなシステムをつくっていくことが今後の検討課題だと思われる。また、誘導措置などがないと前には進まないように思う。全体を通して目先の話が多くなっているように感じている。こうなってほしいという意思を強く出していただければと思う。レベルあわせという話があったが、基本構想の内容と、基本計画の内容とにかなり乖離があるように思う。一般市民が読んでも夢が感じられるように、大きな構想の実現に向けての書き込みがもう少しあるとよい。

久部会長

展開方策として4項目があげられているが、都市計画マスタープランの改定と、重点地区(吹田操車場跡地、南千里丘)の3つの項目を除くと、残りの1項目は一般市街地に関

する項目ということになる。現在は、不燃化のまちづくりの話だけになっているが、一般市街地については空き家の増加や小売市場の閉鎖など、まちの姿が変わってきている。住民が表に出て、自分たちの地域のまちづくりを今後どうしていくのかを市役所と一しよに考えていくことが必要となっている。

榎谷委員

自分たちが住んでいる地域をどういうまちにしたいのかについて、住民の間でコンセンサスをつくっていかないと、本来のプランはできていかないと思う。街路樹を例にあげると、街路樹の樹種の選定や街路樹の管理について住民ときっちり話ができていない。そのため、落ち葉掃除の地元負担が重いと街路樹を伐採してほしいという話になってしまう。景観的には街路樹を守った方がきれいなまちになる。そこで、地域の人たちに街路樹の樹種を選んでもらい、街路樹の管理に関わってもらうようにすれば、世代が変わった後に、街路樹の落ち葉についてのクレームがあったとしても、地域での話し合いで解決できるようになる。また、まちづくりの歴史が受け継がれていくと思う。正雀のワークショップの際に、路地裏を情緒ある空間にするために「石畳化する」というアイデアがでたが、これも地域住民で共有ができていれば、石畳化したために、自動車が通るとき、がたがたと揺れることも一定我慢しようということになると思う。今後は、まちづくりをみんなで一しよにやっていくことが必要になってくると思う。

久部会長

施策の展開として、「住民主体のまちづくりで方向性を決めて、それを支援していく」という取組内容を記述することが考えられる。

■施策 道路を整備し安全性を高めます (2-3-11)

久部会長

次に「道路を整備し安全性を高めます (2-3-11)」を検討する。

榎谷委員

まちづくり市民会議の時に話し合っていたことであるが、摂津市はフラットで高低差が少ない。市域も狭いので、自転車や徒歩が主な移動手段である。そのことが摂津市の魅力だと思う。しかしながら、自動車が怖かったり、歩道に段差があったり、自転車道のネットワークがつくられていないことなどから、安心して移動することができない。市民会議での提言書では「環境に配慮したまち」「誰もがスムーズに移動できるまち」という2つの側面から自転車や歩道整備などを提言した。自転車専用道路まで必要かどうかは別として、自転車で安心して市内各地を移動できるようにすることは、自動車の利用抑制にもつながる。狭い道路を活かしながら、快適に生活していける環境をつくることにもなる。そうい

う観点からの記述が必要である。

久部会長

自転車専用道路の整備までを求めるのは難しいように思われるが、例えば、「快適な生活道路の整備」の文章中に、“自転車”という言葉を入れ込み、自転車が使いやすい生活道路の整備を記述していくことが考えられる。

川西委員

運送会社をしているが、運転手の話によると一番怖いのが自転車とされている。子どもを乗せた自転車の側を通るのが怖いらしい。自転車をきちんと位置づけて、意識する方が、自転車利用者だけでなく、自動車利用者のためにもなると思う。

久部会長

22 ページの「摂津市の特色や魅力ある取組」として書き込むことも考えられる。

榎谷委員

自転車での移動については、行政ももう少し意識をした方がよいと思う。自転車は多くの市民の移動手段である。公共交通も必要であるが、自転車の安全通行について、もっと意識した方がよい。正雀駅周辺では、歩車道が分離されているのは2箇所しかない。真剣に考えるべき問題であると思う。

道路課

委員のご指摘の通り、正雀地域には歩道が少ない。昔の基準だと、20cmの高さに上げて、1 m50cmの幅で歩道をつくる必要があった。そのため、家を建てるときも、道路の高さにあわせて家を建てている。段差解消に向けて改良したいと考えているが、道路全体の改良が必要となる場合もある。基準が変わり、自転車を通る歩道を整備しようとするれば2 mか3 mの歩道が必要となる。千里丘三島線では3 m50cmの歩道を整備している。今後もできる限り歩道を改良していきたいと考えている。

市民の皆さんにお願いしたいこととしては、例えば、道路の「一方通行化」などを合意していただくと、歩道の幅が確保しやすくなると思う。みなさんの地域の道路をどのようにしたいのかという提案をいただければ対応していきたいと思う。

三宅委員

私が住んでいる地域でも、歩道が波を打っていて段差があったのだが、工事により改良されて通りやすくなった。高齢になると、近いところへも自転車を使うことが増える。自転車の安全を基本に考えてほしい。

道路課

地域からご要望いただいたことについては、対応していきたい。

久部会長

今のご意見を地域の役割として記述してはどうか。例えば、「道路のあり方を検討して、地域のまとまった声として行政に伝える」としてはどうか。

榎谷委員

身近な地域をどうしていくのかといったことについて、日常的に地域の人が議論できる場をつくる必要がある。そのなかで、「道路を一方通行化して歩道を確保する」、「自動車のスピードを上げにくくする」などの工夫をしていくことが考えられる。地域で住んでいる人たちのコンセンサスができればまちづくりは進む。まちをどうしていくのかという議論ができるような場をつくることをシステムとしてつくっていく必要がある。個々に市民が要求するだけでは、全体としては上手く機能しないように思う。

久部会長

16 ページの土地利用のところで、「住民によるまちづくりを支援していく」という取組内容を追記していくというご意見があった。道路だけでなく、いろいろな部署が入って上手く機能すると面白い展開になると思われる。

久部会長

「摂津市の特色や魅力のある取組」に関しては、地域の特徴からどういう施策展開が必要となるのかを考えていく必要がある。例えば、摂津市は平坦でコンパクトでありほとんど坂道がないので、自転車や歩行者が重視されるという特徴があげられる。また、河川・水路が多いので橋の密度が高くなっている。このように、“平坦・コンパクト”、“河川・水路が多い”という2つの特性を生かした取組が「特色や魅力のある取組」として記述されているとよいと思う。22 ページの書きぶりを調整してほしい。

水口委員

施策の展開に「○快適な生活道路の整備」とあるが、◎ではないか。普段から自転車で市内を行き来しており身にしみている。これは◎であると思う。

久部会長

◎としたい。

道路課

歩道に車止めがついているところがあり、それが自転車の通行の支障になっていることがある。そのような車止めが撤去されれば、通行が楽になる部分もあると思われる。行政も努力するが、市民や事業者の皆さんにも、道路上の障害物の撤去などにご協力をお願いしたい。

久部会長

他の項目に比べると、事業者の役割についての記述内容が細かくなっている。「道路空間や敷地の使い方を配慮してほしい」という記述でよいのではないか。他の項目での書きぶりを考慮して調整してほしい。

■施策 公共交通の利便性を高めます (2-3-12)

久部会長

次に「公共交通の利便性を高めます(2-3-12)」を検討する。JR千里丘駅とバスについて記述がある。

水口委員

公共施設の巡回バスについてであるが、別府地区での運行は予定していないのか。別府地区はバス停も遠いし、大阪へ出る方が早いぐらいの状況である。自転車でないところへも行けない地域となっている。別府地区での運行を検討してほしい。

交通対策課

市内循環バスとして、南コースが市役所から別府地域の方へ運行しているが、20年度の乗車人数は1便当たり1人程度と少なくなっている。公共施設巡回バスを別府地域で運行する予定はない。

榎谷委員

平成33年3月に実現している姿として「市民が利用しやすいバス路線が実現できています」とあるが、そのニーズをどのようにして把握しているのか。京丹後市の事例では、市役所が乗客を確保するために動かれている。例えば、高校生への聞き取りアンケート調査をして、距離性であった料金制度を改め、一定の区域内での料金の上限を200円にするなどしている。また、総合病院と交渉して、病院の駐車場の中にバス停を移設するなどの工夫もされている。誰がどんなかたちであれば公共交通を利用してもらえるのかについての調査が必要と思われる。また、公共施設の巡回バスは利用者が少ないようである。まちづくり市民会議では、病院の送迎バスとも連携して、路線を分担してはどうかなどと話し合っていた。もう少し工夫できるように思う。

久部会長

あまり意見を絞りすぎると、計画への反映がしにくくなる。例えば、「交通が不便な地域に関しては、地域と事業者が連携しながら利便性の確保に努めます」という内容であれば記述できると思われる。

三宅委員

公共施設の巡回バスのルートに関しては、スポーツ広場にも立ち寄ってもらいたいという提案をしたことがある。人の流れがあるところに路線をつなげていけば、ルートを広げることができると思う。近くまで運行していれば、立ち寄らせることはできると思う。

交通対策課

公共交通については、民間の路線バスの保護が基本だと考えている。平成14年の道路運送法の改正により路線バスの撤退が自由となった。豊岡市では路線バスを支えるために職員がマイカー通勤をバス通勤に切り替えたそうである。摂津市は平坦でコンパクトであり、徒歩や自転車で動きやすいまちである。路線バスや委託バスなど、全てのバス交通を踏まえて、公共交通のあり方を見直しをしないといけないという話をしているところである。

久部会長

ただ今のご意見を、そのまま「施策の展開」で記述をしてはどうか。例えば、「バス交通全体の機能分担の再編を検討する」と記述することが考えられる。また、交通基本計画を策定することも考えられる。摂津市の特色ある取組として、「コンパクトなまちならではの交通体系のあり方を検討します」などと記述できるとよい。

■施策 安全な水を安定的に供給します (2-3-13)

久部会長

次に「安全な水を安定的に供給します(2-3-13)」を検討する。26ページの施策の展開は、他の項目と比べて内容が細かいように思う。「◎浄水場や送水所内の施設の更新」と「送水・配水管路等の更新」については、両方とも施設・設備の維持管理のことであるので、機能更新を含めて1つの項目にまとめられるのではないか。また、「各種経費の抑制」と「給水収益の確保」、「機構改革と広域化」の3つは経営の健全化にかかわる項目としてまとめることができると思われる。他の項目とレベルが合うように調整することが必要である。

榎谷委員

摂津市では、先日発生したような水道管の破裂事故が起こる心配はないのか。

水道部工務課

水道管の破裂事故が起こる可能性はある。40年以上が経過している水道管を老朽管とし、耐震化も考慮して計画的に水道管を更新しているところである。摂津市内の水道管の長さは229kmある。そのうち16%が耐震化となっている。料金設定とも関わってくるので、財政状況をみながら更新を進めている。

水口委員

災害や水道施設の事故が起こった時、市民にはどのように情報提供がされるのか。

水道部工務課

広報については、ホームページによる情報提供と、拡声器を付けた水道部の自動車の巡回により行う。

久部会長

先ほどのご意見は、緊急時における情報提供に関わる記述を追記してほしいということか。

水口委員

市民・地域の役割として「災害や水道施設の事故等に伴うにごり水や断水に際しても、冷静な対応を取れるよう努めます」とあるが、自分たちの地域の状況をいち早く把握することができれば対応できるかと思われるが、迅速に情報を伝える仕組みができているのかどうか疑問である。

水道部工務課

緊急時については自治会長に連絡をしている。住民からの通報により気付くトラブルもある。普通の事故であれば、どの範囲で給水停止になるのかは分かる。

水口委員

「市民からの通報にすぐ対応します」といった内容を追記することが考えられる。

久部会長

例えば、「○水道水を大切に作る社会の形成」の文章に、「情報提供をしながら、市民と共に使い方を考えます」という一文を入れることが考えられる。

水道部工務課

循環型社会の観点からも、水を大切に使う必要となっている。

榎谷委員

少し前までは「おいしい水」ということが強調されていたが、最近ではあまり意識されていないのか。

水道部工務課

摂津市の水道は3割が自己水である。井戸水であり、以前はペットボトル水もつくっていたが、製造会社が倒産したため現在ではつくっていない。高度浄水処理水は、利き水をしてもおいしいという評価をいただいている。自己水はカルシウムなどのミネラル分が多いので、白い成分がたまることがある。

久部会長

自己水の割合が高いのは、摂津市の「売り」になるのだろうか。「安全安心のために、自己水の割合を高めていきます」というのが摂津市の特色ある取組になればと思う。

水道部工務課

大阪府から購入している府営水道については、責任水量が決められている。大阪府と交渉して責任水量を減少してもらいながら、自己水の90%近くを使えるようになればと考えている。

久部会長

摂津市の特色や魅力についての欄が空欄なので、何か記述ができればと思う。

水道部総務課

自己水の割合はそれほど高くない。

久部会長

何か摂津市の特徴があればと思う。

水道部工務課

自己水源がないまちと比べると、震災の際には水道水が一定確保できると思われる。

久部会長

「自己水源を大切に、いざという時に備えます」などのような記述ができればよい。ご検討いただきたい。

久部会長

「平成 33 年 3 月に実現している姿」の記述内容が、水道部の目線になっている。他の項目と同様に、市民生活の目線からの記述に修正していただけると、記述が揃う。

■施策 水質保全と快適な都市生活創出のために公共下水道を整備します (2-3-14)

久部会長

次に「水質保全と快適な都市生活創出のために公共下水道を整備します(2-3-14)」を検討する。

榎谷委員

川や水路があるのが摂津市の特徴だと思う。川や水路により市域が分断されるという不便な面もあるが、逆手にとって、川とともに生活をしたり、楽しんだり、潤いを活かす機会をつくることは可能だと思う。それを活かすようなことを記述する必要があると思う。

まちづくり市民会議でも、水に親しみを感じられるまちについて提言を行った。3面張りの水路の方が管理しやすいのかもしれないが、もう少し自然と共生できるような水路に戻していくことも考えられる。河川の周辺住民と川や水路のあり方について考えていくことも必要であると思われる。東京周辺では環境に配慮するために、堤防を含めて河川を元の姿に戻すことに成功している事例もみられる。虫が増えるなどの不便さと快適さとをどこで調和させるかなど、地域の人と一緒に考えて取り組まないと上手くいかないように思う。公共下水道に関わる記述だけでなく、水路や川に関わる記述も必要である。

事務局

51 ページの「うるおいのある水と緑の空間づくりをすすめます」の項目で、「◎市民協働による河川管理の推進」などについて記述している。このように書き分けてよいのかどうかを含めてご意見をいただければと思う。

榎谷委員

「快適な都市生活」というタイトルであったのに、公共下水道のことしか出てこないために申し上げた。

久部会長

市民・地域の役割についての記述がない。例えば、合流式に関連して記述することが考えられる。東大阪市で下水道の計画を策定した際に、大雨の時には汚水を流す量を抑制してもらえないかという投げかけをしたことがある。合流式の場合には、大雨の時には下水管を流れる汚水の量を減らすということを、市民の役割にすることが考えられる。何か市民が協力できることを記述できるとよい。

また、施策の展開について、全ての項目が◎となっている。市民の目線に立ってもう少しメリハリが付けられればと思う。担当課で検討いただきたい。

■施策 住宅環境を整備します (2-4-15)

久部会長

次に「住宅環境を整備します (2-4-15)」を検討する。

榎谷委員

内容を見ると、市営住宅だけにウエイトが置かれているように思う。摂津市では広いマンションが少ないために、結婚して子どもが少し大きくなると他都市に転出すると聞いている。民間の取組に行政がどこまで関われるかということがあるが、85~100 m²のマンションが市内で供給されればと思う。まちづくり市民会議では、「多世代が住んでいるまち」という提案をした。2世代や3世代が一緒に住んでいけるような住環境を整えていくことを奨励していくことが必要と思われる。

民間住宅に関しては、耐震化やバリアフリー化を進めるとあるが、◎となっているのは、「市営鳥飼八町団地の建て替え」のみとなっている。もっと夢のある住宅施策や住環境整備がされるとよい。

久部会長

住宅マスタープランの策定が予定されているので、耐震やバリアフリー化だけでなく、良好な住宅供給の促進策の検討などについて、一文を入れておくことが考えられる。

建築指導課

民間のマンションに対して、最低 100 m²以上のマンションを供給しなさいといったような強制はできない。建築協定制度もあるが、全員合意が必要であり実現は難しい。

久部会長

規制では無理だと思われる。「お願い」や「誘導」が必要である。大阪市では数年前から子育て安心マンション認定制度をつくっている。子どもが誤って指を入れないようにコンセントにカバーをつけたり、児童書が 1,000 冊もあるキッズルームを設けた物件もある。大阪市も財源がないので、“お墨付き”により誘導しようとしている。民間事業者が認定マンションであることをチラシでアピールするなど、一定の効果があるようである。財政が厳しくても工夫の余地はあると思われる。

建築指導課

大阪市の事例は分譲マンションではないか。摂津市は賃貸マンションが多い。地主が農

地を賃貸マンションに転用することが多い。

久部会長

賃貸マンションについても、物件が古くなると入居者が集まらなくなってしまう。お墨付きのあるマンションとなれば効果があると思われる。住宅マスタープランを策定する際に、具体的なアイデアを考えてみてはどうか。環境にやさしい物件としてお墨付きを与える方法も考えられる。今の時代でも、市役所のお墨付きは案外効くものである。

■施策 良好な都市景観の形成を図ります (2-4-16)

久部会長

次は「良好な都市景観の形成を図ります (2-4-16)」を検討する。

■施策 駅前周辺の整備をすすめます (2-3-9)

久部会長

特にご意見がないようであれば、次は「駅前周辺の整備をすすめます (2-3-9)」を検討する。取組内容の文言をみると、JR千里丘駅西地区については“再開発”、正雀駅周辺地区については“まちづくり”という言葉が用いられている。

榎谷委員

駅前に限定した項目をつくるのであれば、摂津市には他にも駅がある。駅を中心としてまちが開けていくことから、駅前は重要だと思う。JR千里丘駅については駅の東側地区についても取組が必要と思われる。再開発を前提としないのであれば、全ての駅でそれぞれのまちづくりに取り組む必要がある。駅周辺の住民は、駅という拠点があるので、どのようにまちにしたいのかということを考えやすい。JR千里丘駅の東地区についても、どのようなまちにしていくのかを考える場をつくっていくことが考えられる。また、それぞれの駅でのまちづくりの取組を支援していくことも必要である。市民が自分たちのまちをどうしていくのかを考えていける場所をつくっていくことが必要である。

久部会長

JR千里丘駅の西地区は摂津市を代表する駅前で、あのままでよいのかという思いがある。岸辺駅もきれいになるので、JR千里丘駅のポテンシャルが相対的に下がっていくかもしれない。

八木委員

市場池の周辺はきれいに整備されている。野鳥もいる。

久部会長

吹田操車場跡地が整備されると、JR千里丘駅から西側の道路が整備される。それを活かして、西側のまちがきれいになればと思う。

榎谷委員

吹田操車場跡地に整備される公園について協議がされている。操車場跡地の新しいまちだけでなく、周辺のまちづくりを含めて、自分たちが住んでいるまちをどうしていくのかについて考えることが必要である。

久部会長

JR千里丘駅のガードがようやく整備された。沿道についても上手く誘導すると、南北のメインストリートができる。駅だけでなく、駅からどう広げていくかということも検討していくことが必要と考えられる。書きぶりを調整いただければと思う。

水口委員

摂津市の特色や魅力ある取組として、「◇近隣大学等との連携」とあるが、大学だけでなく、NPOセンターや大学のコミュニティスペースなど市民が集まる場所がいろいろとある。記述方法を工夫してほしい。

久部会長

タイトルを工夫してほしい。

■施策 新しいまちづくりをすすめます (2-3-10)

久部会長

次に、「新しいまちづくりをすすめます (2-3-10)」を検討する。全て、吹田の操車場跡地に関わる内容となっている。

榎谷委員

104 ページに「吹田操車場跡地に総合体育館を建設します」とあるので、それを活かしたまちづくりを考えていくことが必要である。また、吹田操車場跡地へのアクセス道路がないので、隣接していても、散歩などで訪れることができないような地域がある。アクセスについて何か考えられないか。

まちづくり支援課

現在の基準でガードを設けると、ガードが深くなりすぎて、隣接する道路に接続ができなくなる。まちを全体的に再整備しないといけなくなってしまうため、ガードの整備を断

念したという経緯がある。ガードから吹田操車場跡地に直接上がるための階段の設置について可能性を検討しているところである。

榎谷委員

新しいまちをつくるときには、既存のまちとのアクセスを考えないといけないということを課題として残すことが必要である。

久部会長

本日ご検討いただいた項目全てを振りかえって何かご意見があればどうぞ。

摂津市の道路は道幅が狭くて使い勝手が悪いというご意見があったが、ヨーロッパでは道路についての新しい考え方“シェアードスペース”が取り入れられつつある。これまでは歩行者と自動車を分離するという考え方であったが、逆に歩行者と自動車を混ぜ合わせた方が安全ではないかという考え方である。日本でも事例があるが、狭い幅員の道路にセンターラインを引くと自動車がスピードを出してしまうので、センターラインを引かないという工夫をしている地域がある。今、ヨーロッパでは、交差点の信号機を廃止して、ドライバーが注意しないと通れないような状況にしている事例がある。そうした方がドライバーもよく注意をするようになる。信号や横断歩道で守るよりも事故率が下がっているというデータもある。考え方としては180度逆転の発想である。市役所が頑張っても安全度を高めるためには限界がある。空間の狭い摂津市だからこそ、道路の使い方を、ドライバーや歩行者、自転車利用者が一緒に考えるという余地があると思う。

また、これまでは、地域で何か問題が起こったら、「何とかせいよ」と市役所に話を持ってくる人が多かったが、「いっしょに考えませんか」と投げ返す機会を増やしてはどうかと思う。1対1だと水掛け論になるので、地域の人たちに集まってもらって話をすると、行政に対して「言いすぎ」「市役所の方が筋が通っている」と言ってくれる住民が出てくる。これは次回の協働とも関わる話である。今日の議論では、「地域ぐるみでのまちづくりを総合的に考えていくための仕掛け・仕組み」が重要な柱であるように思われる。まちづくり支援課が窓口になるが、同課だけが動くのではなく、市役所全体として動けると面白い動きになる。正雀や南千里丘のまちづくり、吹田操車場跡地の検討では地域の人が参加して検討してきた。こういった動きが一般市街地を含めてできるようになっていくことが重要である。

榎谷委員

市民体育祭などのイベントでは、いろんな団体が協力して一つの行事をつくり上げていく習慣ができています。しかし、会議ではイベントや行事に関わることしか話し合わない。せつかく小学校区単位でのコミュニティがあるので、「住んでいるまちをどうしたらいいのか」と地域で話し合いのできる場ができるような支援があるとよい。

久部会長

池田市では、今年度から小学校区単位に予算を付けている。予算を今年何に使うかといったことを、地域で決めていただくことにしている。地域では優先順位をつけて、予算案を示し、それに沿って行政が工事や事業をしていく。地域で予算案をつくることは大変であるが、そうすることで、自分のこととして地域のことを考える人が増えていくように思う。

榎谷委員

正雀地域では、毎月第4水曜日の夜に正雀市民ルームでワークショップを開いている。その過程で、子どもたちに参加してもらって公園に絵を描いたりしている。また、まちを歩いて、危険な箇所を地図の上に表して、自治会で回覧してもらって、意見を聞いて、地図を修正するという作業を続けている。こういった作業ややりとりを通じて、一人ひとりがまちに関わって、まちをよくしていこうという実感が持てることが大事である。住民の参加により、一つのものとして地図が徐々にでき上がっている。正雀自治会には2～3回も回覧を回してもらっている。地図が完成すれば、旧の味舌小学校区の全世帯に配布する予定である。このような活動を続けていく中で参加者が増えていけばよいと考えている。

八木委員

まち歩きは何時ごろにされたのか。

榎谷委員

昼間である。そのため、街灯が暗いところなどは調べられていない。

久部会長

他の自治体での事例であるが、まち歩きに私服の職員をそれとなく参加させ、まち歩きで住民から指摘があったことにすぐに対応することで、ワークショップの雰囲気がよくなったということがあった。方法を少し工夫するだけで、住民と行政の関係が上手くいく事例であった。一方、別の自治体では、交通バリアフリー計画の策定に向けて自治会がまち歩きをするので市役所の担当部署に声をかけたら、参加を断られたという事例があった。ある駅のまち歩きに協力したら、他の駅の時にも協力しなくてはならなくなるというのが断った理由のようである。「地域がいっしょにやりましょう」というときには積極的に出ていくことが望まれる。フットワークの軽さみたいなものがあるとよい。

榎谷委員

基本構想の第5章「まちづくりに向けた摂津市、市民、事業者の役割」については、この内容でいくのか。

久部会長

今後検討する。基本構想の第4章「まちづくりの目標」についても今後検討する。

榎谷委員

基本構想の第5章については、内容をふくらましたものを示してもらった方がいい。

久部会長

基本構想の第5章については、次回の部会で、地域と行政との関係について議論をする
と文章の加筆・充実ができるようになるのではないかと考えている。

2. その他

事務局

前回の議事録を配付しているので、何か修正があれば事務局までご連絡いただきたい。
また、他の部会に審議してほしいことについて、ご意見があれば提出願う。

次回は会場が変更となり、男女共同参画センター3階の第3会議室で開催する。本日と同様に14時からである。次回は市民協働、参画などの仕組みづくりなどについて検討をしていただく。

以上